



【問い合わせ先】
釜石海上保安部
交通課長 佐藤 学
電話：0193-22-3830

令和4年1月14日
釜石海上保安部

令和3年における岩手県での海難発生状況（速報値）

1 船舶海難の発生状況

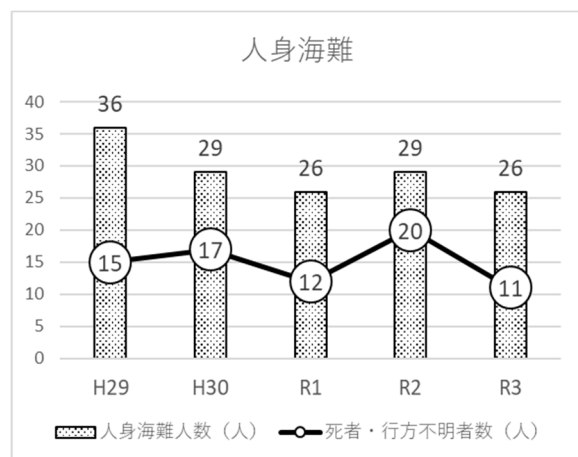
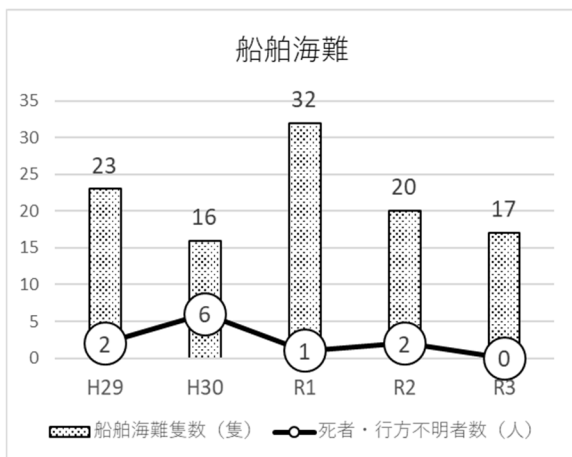
- (1) 船舶海難は17隻で前年に比べ3隻減少
- (2) 船舶海難に伴う死者・行方不明者数は0人で前年に比べ2人減少

2 人身海難の発生状況

- (1) 人身海難は26人で前年に比べ3人減少
- (2) 人身海難に伴う死者・行方不明者数は11人で前年に比べ9人減少

○岩手県における船舶海難及び人身海難の推移（過去5年）

		H29	H30	R1	R2	R3
船舶	船舶海難隻数(隻)	23	16	32	20	17
	死者・行方不明者数(人)	2	6	1	2	0
人身	人身海難人数(人)	36	29	26	29	26
	死者・行方不明者数(人)	15	17	12	20	11



【船舶海難の特徴】

船舶海難隻数は17隻で、前年に比べて3隻減少し、過去4年（平成29年～令和2年。以下同じ。）の平均値（22.8隻）と比べても減少している。

船舶用途別では、漁船が6隻と最も多く全体の約4割を占めているが、前年に比べて10隻減少し、過去4年の平均値（14.8隻）と比べても約9隻減少する等減少数が際立っている。

海難種類別では、衝突と転覆が各4隻と最も多くなっている。転覆した4隻はいずれも小型漁船であり、内3隻はウニ漁等の作業中に波を受けて転覆したものであった。

【人身海難の特徴】

人身海難人数は26人で、前年に比べて3人減少し、過去4年の平均値（30人）と比べても減少している。

人身海難に伴う死者・行方不明者数は11人で、前年に比べて9人減少し、過去4年の平均値（16人）と比べても減少している。

活動形態別にみると、マリンレジャー活動中の海浜事故数が9人と、過去4年の平均値（4.3人）に比べて約5人増加する等増加数が際立っている。

マリンレジャー活動中の海浜事故の活動内訳は、釣り中が5人（内死者3人）、遊泳中が4人となっている。

【海難防止対策】

岩手県においては、昨年、漁船による船舶海難が大きく減少したものの、依然、漁船の占める割合が高いことから、釜石海上保安部では、引き続き訪船指導や海難防止講習会等を通じて漁業者の方々の安全意識向上に向けた取り組みを継続していくこととしています。

また、釣り中に防波堤等から海中転落する事故が増加傾向にあることから、港湾管理者等の関係者と連携し、立ち入りが禁止された防波堤等の危険箇所へ立ち入らないよう現場指導を行い、「救命胴衣の常時着用」、「携帯電話等の連絡手段の確保」、「118番の活用」等、自らの命を守るための行動について呼びかけを継続していくこととしています。